

岡倉古志郎 きしろう 評論家。明治四十五年五月六日東京生れ（九二一）。
岡倉天心の孫。昭和十一年東京帝國大學經濟學部卒。内閣調査局に入
ると十二年の企畫院事件、心連致主下獄。のち綜合インド研究室、心在籍。
二十九年同志社大學教授、三十六年アジア・アフリカ研究所を設けこ
所長。この間かた世界經濟研究所理事等を務める。

譯著書、リッデル・ハルト著「軍機下のヨーロッパ」（譯、昭和十
二年五月十日清和書店）、岡倉天心著「理想の再建」（共譯・岡倉
一雄共編、昭和十二年七月二十日河出書房）、「灰色の青春—學生社
會運動史の一側面」（合著・東京大學新聞社編集部編、昭和二十二年
二月五日東京大學新聞社出版部）、「若き日の軌跡—私の學生の頃・

第一集」（合著・學生書房編集部編、昭和二十二年四月二十日學生書
房）、「現代世界の史的構造」（合著・東大歴史學研究所會編、昭和十
十二年十一月十五日東大協同組合出版部）、「新しいアジア」（昭和
二十五年一月十五日福村書店「中学生歴史文庫・世界史」）、「パレ
オチナ物語」（昭和二十五年四月一日日本評論社「新文化叢書」）、
「死の商人」（昭和二十六年一月二十日、改訂版・二十七年七月二十
日岩波書店「岩波新書」）、「國際

問題 用語 人名辭典」（小椋廣勝共編、昭
和二十六年四月十五日青木書店「青
木文庫」）、「ネーデルの秘密」

（昭和二十六年七月二十日弘文堂
「アーネ文庫」）、「共產主義への

50の疑問」（合著・理論社編集部編、昭和二十六年十月十五日理論



社)、『日本の死の商人』(昭和二十七年五月)、二十五頁要書房)、『日本再軍備』(昭和二十七年六月)、二十五頁確書房)、『財閥のゆくゝと戦争は、また作られるの』(昭和二十年八月)、十頁光文社、「カッパ・ブックス」)、『アジア・アフリカ周題入門』(昭和二十七年一月)、十四頁岩波書店、「岩波新書」)、『新植民地主義』(磯山善郎共編著、昭和二十九年七月)、二十九頁岩波書店)等。